

第75号

平成18年3月13日

高二B 進藤 剛至  
高二C 長谷川 優

# 読書三昧

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号



## 図書委員の主な活動

- 四月 中一〜高三までの図書委員役員が決定
- 六月 灘校との図書委員交流会（読書会）
- 十月 神戸海星女子学院にて図書委員研修会を行う  
小川 守正氏（元理事長）と読書会を行う
- 文化祭にて古本市を開催
- 文化祭週間にて図書館クイズを開催
- Library News（高一版）発行
- 十二月 図書委員選定図書 店頭引拔を行う
- 二月 読書三昧発行

\*その他、日常常務として書架整理を行う

# （特集）校長樋口英雄の美学



この度、校長先生がインタビューに応じて下さいました。その内容をご覧下さい。

Q: 校長先生にとって「甲南」とは一言で言うと、どのような学校でしょうか？

A: 僕自身は素晴らしい学校、という風に思っています。

Q: 具体的にどのような

点でしょうか？

A: まず、生徒は非常に育ちがよいと思つて、それぞれ自分の好きなことをみんなが非常にやっています。

熱心だし、先生が生徒を観る視点も物凄く良いと思います。

まあ、欲を言えば、勉強をみんなももうちょっとしてくれたらいい学校になると思いますね。本当の意味での学力をつけてくれたらいいかな。

Q: 今の甲南生に伝えたいことは、本意の意味での学力をつけて欲しいと。

A: その点ですね、教育を受けた者がみんな教育があると思わないですね。僕自身は、教育を受けた者が教育がある、というのではなく、本当の意味での、人間としての優しさとか、厳しさとか、そういうものを身につけて持つ必要があると思います。それに、甲南で德育といわれるけれども、德育というのは言葉で言うたら簡単ですが、なかなか德育といつものは難しく、やはり、ある人間が（生徒を対象にして）言えは、運動部であっても文化部であっても、きりぎりのところまで行って、そこで自分を見失わずに、その場でいかに這い上がる力をつけるかとか、生きるか死ぬか、という瀬戸際を経験した者が、德育といつものが身につくのではないのでしょうか。

一つのこと、物凄く打ち込んだ人間、そういう人間は優しさとか、厳

しかもそこで味わつて思  
うけれども、そついつ人  
間が、やはり、本当の意  
味での優じき、敵じき、  
徳言といつものを身につ  
けるのではないでござい  
か。徳言といつものは  
落ちていけば捨つとか  
人に優じきするとか、そ  
う言つたことも勿論、徳  
言だろうけれども、もつ  
と大きな意味で戦つ姿勢  
とか、あるいは、これたれ  
そつになつたときに、そ  
こで頑張れるとか、そつ  
いつとも僕自身は徳言  
のひとつだと思つただけ  
どな。

そついつ意味で、甲南  
生を見たときにみんなが  
そついつ戦つ姿勢を持  
っているのかといつてそつ  
ではない。だから、もつ  
少し自分の限界に挑戦し  
てゆつといつ姿勢、そつ  
いつものま、これから  
もつともつと身につけて  
欲しい。  
学力と共に戦つ姿勢  
きりきりのとこで生き  
る、といつたことを経験す  
ることによつて、徳言も  
自然と身につけてくるだ  
ろつ、もつ一方で学力  
も育むといつて出来るの  
違つかぬ。  
せりきりといつて自

分に挑戦するといつこと  
を、自分の好きなことを  
する中で経験するのは非  
常に大切なことと思つ。  
好きなことであれば、挑  
戦できるから、それにど  
れだけ打ち込めるか、そ  
してそれによつて集中力  
や決断力もついてくる。  
「学力つけれ」、「学力つ  
けれ」と先生方が言つた  
だけでは、なかなか本当  
の意味での学力はつかない。  
自分で如何に、知ら  
ないことを知っていくか  
とか、「何故?」とか  
「どうして?」とかそつ  
いつことを常に自分に問  
いかけてみて、それを解  
決していくと、色んな力  
がついてくるの違つか  
な。

Q:やはり、そのよう  
に人間形成をしていく上  
でも、「読書」といふの  
は非常に大切なことだと  
思つのですが、校長先生  
によつて「読書」とはど  
のよつな存在なのでしょ  
うか?  
A:求める気持ちがな  
いと出会いはないと思つ。  
人間同士も本との出会い  
もあつたろつ。

電車に乗遅れたときに、  
本屋に入る。遅れること  
によつて本屋に入ったと  
きに、本との出会いが意  
外と多い。  
やはり、自分で何がを  
求めているときに本との  
出会いが非常に多い。何  
にも考えていないときは、  
本との出会いもない。そ  
ついつ意味で、学生みん  
なにも、何か打ち込み  
思いを抱くことによつて、  
本との出会いがあるのと  
違つかぬ。  
あの本が読みたいなあ、  
といつ目的を持って行つ  
たときにその本がないこ  
とも多いが、その拍子に  
いま求めているものがあ  
つたら絶対に買つなあ。

Q:将来の為に今  
何を思つているかを常に  
自分に問いかけていけば、  
本との出会いはよつちち  
うある。本を読むのは何  
かに打ち込んでいないと  
見つからないの違つか  
な。平々凡々と生きてい  
たのでは、なかなか見  
つかない。  
それが小説であつたり、  
求めているものであつた  
りた、大塚隆川君をとつ  
たあの本を読みたい、と  
いつのてあれば本屋へ行  
けば、いくらでも手に入る

が、そついつ出会いも  
あるが、そついつときと  
なんとなく本屋に入つて  
出会うとき。そついつ  
ときは非常に嬉しく、時  
間を忘れて読んではしまつ。  
そついつ出会いが大事な  
のと違つかぬ。  
もつ(二つ)は(他の)先  
生に薦められて、先生同  
士でも、和田先生や、塩  
見先生や山西先生、お  
薦めの本を聞いて、読む  
こともあるし、だからそ  
ついつ環境、そついつ気  
持ちで読んでいる人が周  
りにいて、そついつ人の  
薦めで出会つ本もある。  
一冊読んだためにその人  
の本を全て読み漁るとい  
ふことも結構ある。(笑)  
そついつ出会いもあるの  
と違つかぬ。それも大事  
だと思つ。

Q:そつですか。とこ  
ろで、校長先生が最も影  
響を受けられた書物は何  
でしようか?  
A:僕は、「加藤諦三」  
といつ人の本は、どの本  
からもすく影響を受け  
た。君の年代でも多分、  
非常に感じる人が多い  
と思つ。その人はどの本  
でも「自分を飾るな」と

いつことをいつも言つ。  
ありのままに、力がなけ  
ればないことを出しなせ  
い。力が無いにある振  
りをするのがいちばんし  
んどい。そついつことを  
言っている。その人の影  
響は強かつた。  
若い頃に読まなければ  
ならない本はたくさんあ  
る。全集ものとか、「チ  
平家の人々」や、「罪と  
罰を、僕らの年代になつ  
て読め、といわれても非  
常に重い。(笑) 時間的  
に追われていることと  
僕も63歳だから、先が  
見えているときに、全集  
ものをもつ一回読め、と  
言われてもなかなか読め  
ない。

Q:一つ言えることは、こ  
の本を読んだら絶対にラ  
スになる、といつよう  
な感覚で本は読まないほ  
うがいいといつこと。そ  
ついつ本もあるけれど、  
小説なんかは、この本を  
読んだら、将来いい生き  
方が出来るのでは、とい  
つよつな気持ちでは、絶  
対に読まないほつがいい。  
やはり、そこに出てく  
る人物、生き方、考え方  
などが、知らず知らずの  
内に自分に影響を与えて  
くる。そついつものだと

思つ。  
ためになるから読もう、  
といつ本と、もつ(二つ)は  
読みながら涙が出てくる  
場面とか、非常にかわい  
い女性が出てくるとか、  
そついつものを感じ取る  
気持ちが大変なのと違つ  
かな。  
やはり、自分の考えを  
表現するとか、そついつ  
時に至て綾宮された自分  
が出てくると思つ。今も  
こつやつて、小原と進藤  
に話しているけど、自分  
が63年間生きてきた  
その全てが、言葉になつ  
て出てくるのであつて、  
どういつ生き方をしてき  
たか、どれほど涙を流し  
たか、今、言葉に出て  
くるのと違つかぬ。  
そついつ意味で、本で  
もテレビでも、涙が出て  
くるよつなそついつ本と  
の出会いを求めて欲しい。  
ドトマを見ん欲しい。  
やはり、結果だけを求  
めて生きるのとは成しな  
い。色んな本に出会つて  
涙を流す。あるいは、こ  
の人の生き方つて素晴らしい  
しいな、といつ思いが大  
事なのと違つかぬ。そつ  
いつ思いが、その人の生  
き方に出てくるのと違つ  
かな。

だから、同じ「おはよ  
う」といふ言葉を掛ける  
にしても、おはようとい  
つのは、文字では「お・  
は・よ・つ・つ・や。でも  
言葉でいつ、「おはよ  
う」といふには、色んな感  
情がそこに出来る。例  
えば、朝、学校で会つた  
とき、「おはよう」とい  
ふ言葉に、生徒一人一人  
の何とも言えない気持ち  
が、その言葉に出て来た  
りするのと違つかぬ。  
本を読つていつのは、  
どこでプラスになるか分  
からないが、どこでプ  
ラスになるか分らないこ  
とを、今やれといつこと  
は難しいかもしれないが、  
今の子といつのは、何か  
役に立たなかつたらやら  
ないと、自分によつて  
プラスにならないからや  
らないとか、金が儲かる  
か、とかいふ考えの人が  
多いのと違つかぬ。僕は、  
それでは将来いい生き方  
が出来ないと思つ人と  
「人とのいい出会いをす  
る為、今をどう生きるの  
か」、「いい本と出会つ  
たために今をどう生きるの  
か」、が出会いの原点に  
なるのと違つかぬ。  
今といつ時間を、精一  
杯生きぬく、頑張る、涙

を流すというよつなことが、いい出会いに結びつくのではないかと思う。

Q:長年の教師生活から得た、校長先生独自の哲学を聞かせて頂き有り難うございます。ところで、少し刻になつていたのですが、根本的に教師になられたきっかけはどのようなものだったのでしょうか？

A:それは、僕は高一の夏休みの終わりに、ふと、教師になろうと思つた。何故か分からないけれども、それまでの生き方がそうさせたのと違つかない。今はつきり言える事は、僕が小学校5年生の時に、父親を亡くして、兄弟5人が学校に行っていたので、一年ほど新聞配達をしていたことがある。その時に、いつも配達に行っているおばあさんが門の前で自分を待つてくれていて、冬だったから、熱いお茶をくれた。その時に、「今はしんどいけど、今にきつ」といふ言葉があるから頑張ろう」と言ってくれた。そのことが忘れられない。その「頑張れ」といふ

とを一番、そのおばあさんが教えてくれたのかもしれぬ。苦しいときにそのことがいつも目に浮かぶ。

毎朝、早起きする苦しさや辛さを思い出す。今はこれくらいになつてもないと思ふ。その時のおばあさんの優しい言葉が、自分の人生の中で大きな影響を与えた。先生になれよ、そういう言葉を生徒にかけられるのではないかな。そういう仕事に就いたら、いい生き方が出来るのではないかな。といふことが、総合的に頭を掠めたんだと思つた。そこから、勉強した。家庭のために、私学には行けないし、予備校にも行けなかつたので、公立にしか行けないという時に、僕は体を動かすことが凄く好きだったから、体育の先生になろうと自分で思つて、体育の先生を目指して猛烈に勉強した。そして入試の時にこんな話があった。大学入試前日にたまたま見た、古典の問題集の問題に出ていた箇所が、最初の古典の試験その半出たのだ。人間の一生の中で不慮なことがあるもの

だなと思つた。こんなことがあつていいのかなと思つた。

そんなことがあつて、最初の古典が成功したので、あとの数学も解けないうつ問題も解けたし、それで受かつたといふことだ。そういう運命を感じさせる縁談が、僕を先生にさせたのだと思つた。出会いを求めて、今をしっかりと生きる必要がある。投げやりになるのは駄目だと思つた。自分に与えられた時間の中で、一杯、生きることが、いい出会いに繋がるのではないかなと思つた。

Q:なるほど、そのよつな運命的な出来事が、校長先生を「教師」という職業に導かせたのですね。更に発展させてお尋ねしたいのですが、先生が校長職に就任なさるとき、どのようなビジョンをもつていらつしやいましたか？

A:甲南というのには伝統のある学校だから変えてはいけない所は残そうよ、変えなければならぬ所は変えていこうと。そういうことを考え

たのがまず一つ、もう一つは開かれた校長室にしようよ。そういう思いは個人的には持つていた。だからお客さんがいないときには校長室は開けておくよ。それで誰が入つてきてもいいですよ、という環境を作る。そういうビジョンをもつて始めた。先生というのには、もう一つ現場では一番生徒と接触するから、先生が気持ち良く授業の展開が出来るように、ということ。校長と先生との距離を縮めようよ。僕の前

の校長先生は兵庫県の教育長であつた井野校長先生だったんだけれども、やっぱり公立よりの先生で、兵庫県の教育長だった先生だから、僕自身が教頭していた時でも、ちょっと先生と生徒との距離があるな、っていう気はしていた。だけど僕が校長になつたら、校長と先生と生徒との距離は詰めようという気持ちだった。それで出来るだけ子供達と、生徒たちと接する機会を多くしようといふことよ。何もないうちに門のところで挨拶しようよ、そして中学一年の入学時にはとにかく誕生日に誕生日カードを送ろうよという風に思つて、中一と高二、そして高校から入ってくる45名の生徒には、6年間ずっと誕生日カードを書きまくつたんだけれども、まあ、せめて出来ることはそういうことかなあ、という感じで。

もう一つは、生徒に学力を付けて頂かないと、大学に行つたときに、大学側から「甲南生は」といふ後ろめたい気持ちを持たせてしまつて、そういうことを無くすために、もっと生徒に勉強に努めようと思つた。甲南は独創力を持つた生徒を輩出していこうという理念があるけれども、独創力も想像力も、やっぱり覚えなければならぬこととはきちつと覚えておかないと、絶対に生まれてこない。

例えば小原が音楽の中で楽器を鳴らすにしても、基本的な音の出しかたがある。それは楽器の弾き方、ていふのを教わるわけであつて、そういう事を全て自分で把握した上で自分を表現する。「これが俺の持ち味だっ」とい

うものを出していつて初めて人は初めて感動してくれると思ふ。進藤が俳句を作るにしても、俳句のイロハはやっぱり知つておかなければならぬ。そこから自分の俳句が出来るのだと思ふ。何故かそういう風に思つた。例えは小原が歌を歌つた時に、それは声がいいとか上手いとかつて言うよりも、もっと奥深くにある「自分」といふ人間がワツと出てきて人は感動していくんじゃないかと、そういうことを、僕はスキーで感じた。進藤が俳句を創るにしてもそれはやっぱり、「自分」といふ人間がそこにいて、それが大事なことじゃないかな。それは「自分」といふ人間性が俳句の中に出ていて、それは感性であるかもしれないし、情緒であるかもしれない。

「情緒」といふ言葉を僕は最近よく使うよつになつたのだけれども、やっぱり情緒っていふのは大変大事な事であつて、花を観たときに、「綺麗な花だな」と思ふのと、「素晴らしい物を見た時には素晴らしい、あるいは

涙を流せるっていいこと  
が「情緒」じゃないかな  
て思っただけども、だ  
から人間にはやはり情緒  
が一つの決断をする時に  
非常に大事な要素になっ  
てくると思っ。だから情  
緒っていつのは、本物を  
見る、本物を聞く、そう  
いつ本物に触れること  
よって情緒っていつのは  
生まれてくるんじゃない  
かっていう気がする。絵  
にして、山にしても…

僕は東京に行くときに  
いつも富士山を見るんだ  
けれど、富士山っていう  
のは僕が物凄く好きな山  
なのだけれども、富士山  
を見たときに物凄く気持  
ちが休まる。あの広い裾  
野に雪でも被れば、すこ  
しい山だと思っ。登っ  
たら汚い山なんだけれど  
も、あれは日本のいい所  
が出てくるんじゃないか  
なという気がする。

Q:何を思っかによっ  
て人生が決まるとよく仰  
られますが、それと共通  
する事でしょうか？

A:「人生」といつのは  
自分の思いを綴る事だ  
と、何を思っかによっ  
てその人の人生は決まっ

いくよ、そついつことだ  
と思っただけだね、言っ  
てることは、だからその  
感性とか、美しい物に  
触れた時のその心の動き  
を大事にしないと、情緒  
っていつのは備わっってこ  
なと思っただけであって  
合っっているかどうかわ  
らん(笑)。

僕はやっぱり春入キ  
をやっていてね、春入キ  
で雪が溶けてきて、そこ  
にぶきのとうが出てくる  
光景を見た、長い冬を  
雪の中で乗り越えて、春  
先を迎えてやっと芽をだ  
したんだなと思っ。あ  
の光景っていつのはすこ  
く好きだな。だから桜  
とか、梅とか、特に梅は  
好きなんだけれど、梅  
だっって美味いってけ  
れども、寒い冬をじつと  
我慢して乗り越えてパツ  
と花が咲く、その梅の花  
の匂い、僕は物凄く好き  
なんだけれど、そついつ  
うものを君達にも感じて  
欲しい。自然の力強さと  
か偉大さとか、そついつ  
ものを敏感に体感してほ  
しいし感じて欲しい。そ  
ついつ事が「自分」とい  
う人間を作っっていくん  
じゃないかな。

小原がコンクールなど

でパツと出した声に「自  
分」という人間がその声  
に出ている、これが素晴  
らしい。進藤が俳句や文  
章を創る上でもそつうだ  
と思っ。そついつものが  
たときに人は感動する  
「感動する」っていつ  
のも好きな言葉、もつ  
つ、「夢」っていつのも  
好きな言葉なんだけれ  
ども、この前も言ったよ  
うに、「男の持ち物で一  
番大切な事は夢を持つこ  
と」である。その夢を  
実現するために「今」を  
大事にして生きようじゃ  
ないかと、「今」っていつ  
のは将来をどういつ風  
に生きていくかっていつ  
将来の為に「今」を大事  
にしよつと。「いい心  
」といつたり諷刺があるか  
もしれないけれど、「い  
い心」っていつのを体  
中で巡回させていくこと  
が結局、「徳」に繋がっ  
ていくんじゃないかな

「徳」っていつのはやは  
り経験しないとかなが  
備わらないと思っ。言葉  
で「三」を拾え」といつ  
てもその時は拾っかもし  
れないけれど、無意識  
のうちに自分から進んで  
「三」を拾えるよつになっ  
て初めて、本物であって

「徳」に繋がっ

言われてからやるよつで  
は決して本物の「徳」と  
は言わない。

A:そついつことは最  
近になって考えるよつに  
なった。今まで「俺は死  
なない」と思っっていた  
自分を取らないと思っ  
ていた(笑)。そついつ  
時期があった。そついつ  
ていたけれど、年は取  
るし、死なないと思っ  
ていたけれど、死ぬと美  
感するよつになっってど  
ういつ死に方をしようか  
なとなつと、やっぱり後  
悔しない死に方をしよう  
と。精一杯俺は生きた、  
そついつ風と思ったとき  
にあんまり「死」といつ  
のは怖くなつた。「死」  
から逃げることは出来な  
いと最近そついつ思っ。だ  
が「本」にいい死に方を  
する為に、やっぱり精  
一杯やったいとてをやって  
それで死を迎えられるこ  
いつことが、一番いい死

に方じゃないかな。で、  
今そんなに死は怖くない。  
死なないと思っていて  
最近、死というのを実感  
するよつになってきて、  
それで、俺はどついつ死  
に方をしたらいいんだろ  
うとなつた時に、「今」  
といつ時を一生懸命生き  
て、そして死が訪れたと  
きはやっぱり静かに死  
んでいこつと思っ。だ  
か、死はそれ程恐れて  
いない。やつと、いつ  
う風に見えるよつになっ  
てきた。だから三学期の  
始業式でも言っただけ  
ども、通常、人間は呼吸を  
5億回したら死ぬと言わ  
れ、心臓は20億回鼓動  
を打つたら死ぬとそついつ  
う数値として本の中に書  
いて合ったときに、ああ  
人間ってやっぱり死ぬん  
だなと思った時に、呼吸  
っていつのを物凄く大事に  
するよつになつた(笑)。  
だからそついつ思っことが  
といつのを大事にしよつ  
と、そついつ思っことが今  
といつのを大事にしてき  
た。だから今こつやつて話  
していることも大事なこと  
じゃないかな

Q:人生で経験できる  
ことは限られてるが、そ  
の体験を疑似体験できる  
のは本じゃないかと。

A:さつきから言っ  
ているよつに、僕は本の  
出会いもあるし人との出  
会いもある。僕の決定的  
な出会いだったのが、新  
聞配達をしていた時のお  
ばあさん。これはもつ自  
分の人生を徹底的に変え  
たな。もしあの人が会っ  
ていなければ僕は先生に  
ならなかつたんじゃない  
かな。そついつ決定的  
な出会いが男にする女に  
しろあると思っ。その出  
会いをする為に今を生  
きているんじゃないかな  
だからいい出会いをする  
為には自分の人間として  
それ相心のもは作つと  
か作れなつたんじゃない  
かな。このレベルで  
の出会いと、もつと高い  
レベルでの出会いとい  
うのは色々あると思っ。僕  
も電車に乗っていてすこ  
くいい人に出会っことが  
ある。その人は名前もわ  
からないし、どこに勤め  
ているかもわからない。  
それは男の人でもあるし  
女の人でもある。何とも  
言えない雰囲気を持った  
人に出会っことがあ  
る。僕も4年間電車に乗っ  
て通っっているから(笑)。

そついつ思っことが今  
といつのを大事にしよつ  
と、そついつ思っことが今  
といつのを大事にしてき  
た。だから今こつやつて話  
していることも大事なこと  
じゃないかな

そついつ思っことが今  
といつのを大事にしよつ  
と、そついつ思っことが今  
といつのを大事にしてき  
た。だから今こつやつて話  
していることも大事なこと  
じゃないかな

その人に出会った時にこの  
人はどついつ生き方をし  
てきたんだろつと思っ。  
こついつ威圧感のある人  
もいるし、仏様のような  
顔をしている人もいるし、  
顔の層っていつのは、男  
前とか別嬪とかそついつ  
次元じゃない。そついつ  
次元じゃない。あ、あ、あ  
い雰囲気を持っていてな  
と心の底から感じるこ  
がある。

A:我々が言っつのはそ  
の容姿のいい人とか、そ  
れをいいとか悪いとか判  
断しているケースが多い。  
僕は身形も非常に大事だ  
と思っ。そついつころ  
にもその人の生き様が出  
ているんじゃないかな  
服の色とかにしてもね  
そついつ意味で僕は生徒  
に学生服はきちつと着な  
さいと。それで何回言っ  
てもきちつと学生服が着  
れないといつのはやっぱ  
りハートの問題と思っ。  
だからそこを治さない限  
りカラーしろとか第一外  
すなと言ってもあまり意  
味が無いこつであつて

そついつ思っことが今  
といつのを大事にしよつ  
と、そついつ思っことが今  
といつのを大事にしてき  
た。だから今こつやつて話  
していることも大事なこと  
じゃないかな

だから僕は本物になって欲しい。だから甲南生は本物になる要素は持っていると思っ。しかし、そういうものは卒業してから身に付けてくるケースが非常に多い。だけど学生の時からそういう気持ちで毎日を生かしている。それはそれなりの風貌とか、雰囲気っていうのは持っているように思っ。いやないかな。その辺が惜しいことだな。卒業して社会人になるとみんなピシッとするんだけれど、学生の頃から明確な意識をもって生きればきちっと雰囲気を持つ人間になれるだろう。学生服もきちっと着せて、甲南生らしく、甲南ボーイらしく、やっぱり僕は甲南ボーイになって欲しいと思っ。関東では慶応ボーイ、関西では甲南ボーイ、日本ではボーイと呼ばれているのは二つしかないから、その甲南ボーイという中に含まれていてそのSを身につけて探って欲しい。それは二つはハートの問題。ハートを鍛えるにはほんとに事も辛いでしょ経験がなくなっちゃならないし、その素質をいかにうまく使って優れさせてい

うのが身に付くのであって、「優しくない」というのも優しくはならない。Q:ホリエモン騒動の一件を見て、人生において、超一流になるには能力だけでなくその人の人格なども重要だと思ったのですが、いかがでしょうか？

A:考え方として先生が思っのは、確かにホリエモンはある面からすれば能力がある面からすれば少し片手落ちだったんじゃないかなと思っ。今はの努力する事をタサいと思っ若者が非常に多い。何の為にそんなしんどい事をするんだという考え方という人が多い。僕は誕生日のカードの中に書く子もいるんだけど、努力は裏切らないと書く子もいる。努力をしていくと言っのはタサいけれども人間にとって必要なことだと思っ。だからそういう生き方をしている人そんなに間違わない。人間とっつのはどこかで判断、決断して生きていかなくてはならない。将棋で言ったら決断しなければ

ばならない駒がある訳だ。決断と決断の勝負だから、将棋は、その局面を見て最善の手が打てる。少なくとも善手が打てるような手をいろんな局面からみてその一手を選択するのであつて、そして、選択するといっつのは捨てることだから、将棋のなかで沢山ある一手の中から、一手を指さなければならぬ。その一手を指すために他の手を全部捨てる訳だ。何百、何千という手のなかから選択する。その勝負なのだから、その一手のなかはその人の物の考え方や生き方、ていっつのが出てくるんじゃないかな。だから最終的に名人になる奴ていっつのは人間的にも優れた奴じゃないかな。そついつ事を書いた本が羽生善治の「決断力」といっつ最近出た本だけれども、そついつこども書いてあつた。それで、そついつ事を知ることによつて今日まで、自分がなんとなく漠然と持っつていた思想が、そつやつて一流の棋士が言っつことによつて、あつてなんだなつて自分で確信できるし、そついつ確認の為の本であるかもし

ないな。本を読むていっつのは、自分の思っつていっつこと、本としてそこに書いてあるこつこの歯車がグシッとあつた時はその人にとっつていい本になるのかもしれないし、他の人が読んだらあんなもの仕様もないとなるかもしれない。その言っ本か悪い本かていっつのはその人の生き様によつて随分変わつてくるんじゃないか。

Q:どのような本に感動するかていっつのが個性である。A:そつ、それは音楽であつたり俳句であつたり、スポーツであつたりと色々なジャンルがあると思っ、だつてそのジャンルの中で僕はこうだ！と思っつたことを突き詰めていく。そつすると見えなくなる。で、何をやつてもそのやり方ていっつのは一緒なんだと先生はわかつた。何をやるにしても、何かを突き詰めてやればやり方は一緒、「事に通じる者は、万事に通じる。」(やっぱり努力すること。才能ていっつのは継続できる人である。元々才能があつても努力しなければその才能は消えてしまつ。だから継続的に努力を出来る人が才能がある者であつて、しかし、これは非常に難しい。人間はこついつこつは非常に不得意である。不得意だけれども、それを賣いた人は何をやつても成功する気がする。自

分に厳しく人に優しく、自分にどれだけ厳しさを科せれるかだな。自分に厳しい人は人には絶対にやさしい。自分に甘い人は人には厳しい。それはいえると思っ。どれだけ自分に厳しく生きていくかていっつのが最終的に徳育になるんじゃないかな。甲南ていっつ「徳育」「体育」「知育」ていっつ徳は、自分にどれだけ厳しく生きていくかによつて備わってくるものだと思っ。決して言葉ではな。ああしろこつしると言われた徳育ではそれは本物じゃない。

「これで」校長樋口英雄の著書のインタビューを終了させて頂きます。(完)

(インタビュー) この度、校長先生にインタビューさせて頂く機会を得ることができ、大変嬉しく思っつています。校長先生が切に語られていた一言一言が、この編集を通して蘇り、今回のインタビューで校長先生から教わつたことを改めて胸に刻み、これからも精進させて頂きたいと思っます。校長先生、有り難うございました。(高1B) 進藤 剛至

樋口先生の推薦図書

『決断力』 羽生 善治  
角川書店



注文中です

校長先生お薦めの作家加藤諦三  
『言えないことが言えない人』  
PHP 研究所



# 生徒読書紹介

## 『パイドン 魂の不死について』 プラトン 著 岩田靖夫 訳

古代ギリシャ、プラトンの師ソクラテスは一部の煽動政治家（デマゴーク）の陰謀によって、無実の罪で投獄され、死刑に処せられることになった。ソクラテスは自ら死を選び、毒を仰いで死んで行く。その死を前にしたソクラテスと弟子たちの対話の内容を、その場に居合わせたパイドンが、プレイウスの人エケクラテスに語っている、という設定で行われる、「死とは何であるか」および「魂は不死であるか」というテーマでの討議の対話である。

ソクラテスおよびプラトンは、「(抽象的な概念の)そのものそれ自体」を考える「イデア哲学」の確立者である。この対話篇では、「魂とは不死であり、死とは魂が肉体から開放される」という説を唱えるソクラテスと、それに対するシミアスおよびケベスの反論を中心に展開してゆく。

現代に於いてはイデア哲学よりも、「もの」と「もの」の間にあるものを考えるように、哲学も変化してきたが(例えばドイツの哲学者マルティン・ブーバーはある人とある人の主観が対話によって一つになり、形成される「間主観」というものを考えているし、アメリカの哲学者ソロは「真実とは、対象と対象の間にあるものである」と述べている)、このプラトンらが考えたイデア哲学は、欧州哲学の源流であり、欧州諸思想の源であるので、これを抜きにして哲学を考えることは出来ない。

肉体を、魂を拘束し、束縛するものであり、死とはそれからの解放である、と考えるソクラテスとシミアスらの議論は、非常に面白く、一種の平易さもある。そこに語られていることは極めて高度ではあるが、決して退屈することはないし、死とは何であるか、をいやがうえにも考えさせられる作品である。(高一D 小原裕之)



## 行儀よくしる。 清水義範

何かと言えばすぐに若者を批判し、「こんな事をして何も思わないのか」「こんな事で日本の将来はどうなるのか」などとネガティブキャンペーンを繰り広げる大人たちを見て、「冗談じゃない」と思ってきた僕にとって本書は痛快であった。

著者は教育大出身であり、また作家でありながら小学生に作文の指導をする等、教育への関心は一際であるが、決して学力低下を嘆いたりする訳もなく、社会全体から見た教育を説いている。

我々は我々の社会の中で生活しているのであり、自分さえよければという考えは社会において醜い。今さらといったことだが、果たしてこの点で大人は子供の見本となれているだろうか。行儀のいい人は傍から見ている美しいのだ。そのような「美」が失われていく事の方が深刻であると。我々は美しさを外面に求めてしまいがちであるが、内面的な美しさを失ってはいけないだろうか。そう思っ僕は大分反省した。(高二C 長谷川優)



## 黄色い目の魚 佐藤多佳子

これは、高校の同級生のある2人に視点を置いて繰り広げられる物語です。周囲の人と解け合わず友達はいないに等しいが、イラストレーターの叔父には心を許している村田みのり。そして絵を書くことに秀で、更にはサッカー部のキーパーを務めクラスの中心人物と言っているが、授業中にはノートに絵ばかり書いて、先生に叱られてばかりいるグータラ少年、木島悟。

この二人は、ある美術の授業がきっかけで、惹かれ合うようになる。みのりと悟がデッサンしあい、その時以来、悟は気がつくともみのりの表情ばかり追うようになったのだ。

でもこの2人の関係を「恋愛」の一言では表現できない、とても純粹でどことなくもどかしさもあり、心が惹きつけられるようなとても淡い青春小説です。また、この小説は私達の年代の心の問題、コンプレックスについて上手く盛りこんでおり、僕のお薦めの作品の一つです。(高一B 池田健一郎)



### テロメアの帽子 森川幸人 新記元

この本は遺伝子のことを物語にした本です。この本のタイトルのテロメラというのはも遺伝子です。細胞分裂の回数を計る遺伝子です。細胞分裂のものが色々載っています。クローン技術、DNA、ウィルス等が載っています。

自分は遺伝子等には無知なので、後に書いてある謎解きを見なければ、どの話も何か不思議な話としか思えませんでした。謎解きを見ながら読むと、難しいと感じていた遺伝子の話が簡単に理解できました。

(高一A 前中)



462,7 M

### アメンボ号の冒険 椎名誠 講談

この本は椎名誠の子供の頃の体験を書いた本である。また、話は3つに分かれていて、1つ目は彼が友達と作ったイカダ(アメンボ号)で浜田川といつ川を下っていく話である。他の2つの話はトロッコに乗る話と山に秘密基地を作る話である。

どの話も冒険とスリルに満ちあふれて、とても読みやすい本だ。

(中二C 藤田 雅史)



Y しい

## 社会科安田先生の研究 地名の由来を調べる

京都市内を南北に通る烏丸通(からすまちおり)を挟み、姉小路通と三条通の間に、場之町(ばのちやう)という地名がある。同町では、応仁の乱(一四六七)以前から祇園山鉾の二つ鈴鹿山を出す町として有名である。

町名は、中世の米市場である米場が、応仁の乱以降、この場所に存在したことに由来していると考え、まゝ間違いない。米場の様子は、『上杉本洛中洛外図』にも描かれており、米でも馬借・商人が集まる活気あふれる場所であった。

さて、「場之町」、『京都市の地名』(歴史地名大系 平凡社)では別の説に基づいて記述している。江戸時代の絵図に「馬の丁」と記していることから、江戸時代の京都案内記である『京産』の馬借 すなわち馬を用いる室町期の運送業者が同所に居住していたからだとこの説を引用している。また、大正時代に京都地名の沿革をまとめた『京都坊目誌』の次の説をあげている。同所にかつて室町幕府の町奉行

所があり、宿駅里程の基準点があった。宿駅のこゝを立場と言ったので、同所を「場の町」としたといっているのである。

「場」の場合、同時代の史料を優先して考えるのが妥当なので、江戸時代、大正時代の伝承を記述した、後の二者を採らず、室町時代の米市場があったからという説を採用した。多くの人が関心を持ってきた京都の地名の由来を探るには、一筋縄ではいかない。

京都の繁華街として有名な先斗町は、先斗町通りは存在するが、現行町名とはなっていない。同地は現在、橋下町(はししたちやう)と呼ばれている。南北に通る先斗町(ほんちやう)に西面し、鴨川の西側に位置する。江戸時代には「橋下町」または「ほんちやう」「先斗町」と呼ばれていた。「橋下町」は三条大橋の下にあたることから付いた呼称と考えると大過ないが、「先斗町」の由来については実ははっきりしない。

か(り)という意味で呼ばれたとする説。ポルトガル語で「ポント」、英語で言う「ポイント」即ち「先端」を意味することから付いたとする一説があり、決めてかない。決めてがない場合は一説を併記しておくしかない。どちらでもせつらしく聞かせるが、どちらもつてつけたような説明にも聞かせる。解決しようとする問題に、常にスッキリした解答が無いところが、楽しいともいえる。苦しいともいえる。

『京都坊目誌』の説をここでは採用している。何故か、同町から三条家の屋敷の池の跡と考えられる遺構が発掘されているからである。しかも偶然その発掘の現地説明会に参加しており、この眼で池の遺構を確認している。少なくとも、一条家の屋敷があった、池の存在が確実なのだから、そこから町名がついてもおかしくないと考えた。逆に、そこまで、条件が揃っていて、他の由来があると考えられるものも自然だとおもう。現地説明会に参加したのは大学院生のことだから、まさかその地名の由来を書くことになるとは思わなかった。こゝろで偶然には素直に嬉しいと思つた。

『京都の地名由来辞典』 源城好 下坂守(編) 東京堂出版



291,6 G

版

図書委員選書

頭がいい人悪い人の言い訳術

樋口 估一

PHP 研究

所  
この世の中にはどうしても言い訳をしな  
ければならない時がある。しかしそんなと  
きに限って口をついて出てくるのは、後か  
ら思い出すのも恥かしいなんと苦しい言  
い訳だ。

これはまさにそんな経験のある君にお薦  
めの一冊である。本書はこの世界に存在す  
る古今東西の言い訳を幾つかの項目に分類  
し、その言い訳がどのような点で愚かであ  
るか、もし愚かな言い訳をされたときの対  
応法、また自分自身が愚かな言い訳をしな  
いための心構えが、中高生にも理解できる  
簡単な文体で記されている。

本書をただの雑学書と思うこと無かれ。  
適当に開いた項目を一つ読むだけで、君は  
恥かしい失敗体験と思わず誰かに言っ  
てしまった苦しい言い訳を思い出すのだ。そし  
て自分の愚かさを痛切に実感する。

もし本書を手取る機会があったなら、  
これが良い転機と思ってぜひとも自分の愚  
かさを猛省するといいい。そして高潔な知性  
に溢れた正しい言い訳のノウハウを獲得し、  
有事の際に先生方からお叱りを受ける時間  
を一秒でも

減らす手助  
けとなれば  
幸いです。

(高二D)



809,2  
H  
2

ゴールドゲーム 荻原浩

突然ですが、貴方は暮らすに慮められ  
ている子若しくは慮められていた子は居  
ますか？世代を問わずどこかで見たこと  
はあるでしょう。大きく分けると、イジ  
メの確信犯、それを眼る友人、見てみぬ  
ふりをする生徒、イジメられっ子っての  
が定番でしょう。イジメられっ子、クラ  
スメートに救いを求めていたかもしれま  
せん。でも助けられることより自分が標的に  
なるのが嫌で結局のところ見て見ぬふり  
をして、挙句の果てにウズネられっ子が  
不登校になったり、転向したりする、ま  
あ余り良いイメージではありませんが、  
人の噂も七十五日みんなイジメられっ子  
のことなんてすっかり忘れてしまっ  
う。

まあこの小説でもそうなんです  
2の時にイジメられて転校してしまっ  
たあだ名ト口吉こと廣吉が4年後に復習の  
為突然帰ってきた。クラスメートが一人  
また一人と次々に襲われていく。  
姿も見えないト口吉に対し、イジメっ子  
光也と見ぬふり有志を中心とする人で

「北中防衛隊」を結成！！遣る瀬無い真  
実と驚愕の結末が貴方を待っています。  
この高3の終わらない夏休みを描く青春  
ストーリー。

(高二B池  
田 健一郎)



Y  
おぎ

著作権法の基礎

菊地武 松田政行 早稲田祐  
美子 齊藤浩貴 (編著)

この本は今問題になっている  
著作権について書かれている本で  
す。何が問題になっていて何がど  
んな罪に問われるのかが書いてあ  
ります。例えばこのような裁判が  
ありました。あるゲームを改造し  
て最強状態にして誰かに売る。し  
かし、これはゲームの内容を改変  
するということになり、プレイす  
る人ではなく販売者に賠償金請求  
を発売した会社が求めたのだが、  
これは販売者側が損害賠償義務を  
認めたから払うこととなったが、  
解釈によっては販売者自身がこの  
犯行の主体だと認定したからなの  
か、それとも主体はあくまでプレ  
イする人で販売者はその犯行の手  
伝いをしたということと認定した  
のか二つの解釈ができるのだ。こ  
のように著作権について細かく書  
いてある本なのでこれを活用して  
著作権の關係で捕まることの無い  
ようにしてもらいたいと思ひ、私  
から皆さんに読むことを薦める本  
であります。

(高二A吉田 寛人)



米中石油戦争が始まった

日高義樹

国とは常に利権を求め続ける物である。  
と、タイトルから読む気を無くす様小難  
しい本だが平和ボケしている私達の生き  
る世界にもこれが色濃く残っている事を  
しっかりと再確認できる本だ。  
まずこれを読んでくれた貴方は今の平  
和を有限と思うか無限と思うかどちらだ  
るう？

そんな事は考えても仕方が無いと思っ  
人が殆どだと思っ。

私は平和は有限だと思っっている。遅か  
れ早かれ永遠が存在しない限り平和とは  
終わってしまう。それが明日だとしても  
何ら不思議は無い。

日本の知らない所で世界は石油とい  
力を巡り複雑な動きを見せ続けている。  
その中で日本だけが例外として逃れるこ  
とは出来ない。日本の平和が崩れた時に  
私達は、今の内から世界の動きを知って  
おかなければ、ただ時代に翻弄されるだ  
けになってしまう。

それを避ける為に様々な報道から世界  
の動きを見極めなければならぬが、何  
の下地も無くそれを見極めるのはとても  
難しい。この本は近年の中国やアメリカ  
の動きを知るのに  
役立つと思っので  
一度読んで欲しい。

(高一A

難波 将広)



